

令和6年度 第3回羽島市地域公共交通協議会 議事録

| | | | |
|-----|-------------------------------------|--|---------------|
| 日 時 | 令和6年10月10日(木) 午前10時00分から午前11時00分まで | | |
| 場 所 | 羽島市役所3階 301会議室 | | |
| 出席者 | (敬称略) | | |
| | 会長代理 生活環境部長 | | 高橋 宏成 |
| | 副会長 (大)東海国立大学機構岐阜大学地域科学部地域政策学科教授 | | 應 江黔 |
| | 委員 名阪近鉄バス(株)乗合バス営業部長 | | 山田 規光久 |
| | 委員 岐阜羽島バス・タクシー(株)代表取締役 | | 安田 篤史 |
| | 委員 スイトトラベル(株)バス事業部部長 | | 西川 勝則 |
| | 委員 東海旅客鉄道(株)岐阜羽島駅長 | | 野上 重和 |
| | 委員 名古屋鉄道(株)地域活性化推進本部地域連携部交通サービス担当課長 | | 高井 勇輔 |
| | | | (代理出席:石樽 誠) |
| | 委員 (公社)岐阜県バス協会 専務理事 | | 木村 治史 |
| | | | (代理出席:中島 喜久夫) |
| | 委員 名阪近鉄バス労働組合執行委員長 | | 加藤 浩司 |
| | | | (代理出席:佐竹 達也) |
| | 委員 羽島市自治委員会理事 | | 栗本 善彦 |
| | 委員 公募委員 | | 植村 佳代 |
| | 委員 岐阜運輸支局首席運輸企画専門官 | | 下平 真一郎 |
| | 委員 岐阜土木事務所施設管理課長 | | 児玉 忠哲 |
| | 委員 岐阜羽島警察署交通課長 | | 瀨瀬 夕介 |
| | 委員 岐阜県都市建築部都市公園・交通局 公共交通課 | | 城戸脇 研一 |
| | | | (代理出席:二村 光太郎) |
| | 委員 羽島市健幸福祉部長 | | 三輪 弘司 |
| | 委員 羽島市建設部長 | | 藤井 義郎 |
| | 事務局 生活安全課長 鈴木 巨祥 | | |
| | 事務局 同課課長補佐 河村 健太郎 | | |
| | 事務局 同課係長 清水 孝明 | | |
| | オブザーバー | | |
| | 海津市 総務企画部企画課長 山崎 賢二 | | |
| | 輪之内町 住民環境課長 岩田 好弘 | | |

要 旨

1 開会

2 あいさつ

3 協議事項

議第1号 羽島市地域公共交通計画骨子案について 事務局より資料に基づき説明

(委員)

おでかけPRが新しい試みで楽しみだと思った。また、バスの運転手に対し直接とったアンケートの実施も新しい試みで、すごく良かったと思う。

(会長代理)

おでかけPRのもう少し詳しい説明や、運転手の方が出された意見について、もう一度事務局から紹介していただきたい。

(事務局)

市外への交通については、例えば岐阜市のカラフルタウンや笠松町の松波病院等へ行けないかとの意見をよくいただくが、それらの意見を考えるにあたり、まずは既存の公共交通で行けることをPRしていきたい。例えばカラフルタウンに行く場合、市コミュニティバスや名鉄を利用し柳津駅に到着してから岐阜市コミュニティバス等の公共交通に乗り継いで行くことができることを公共交通に興味のない方や知らない方へPRしたい。名鉄は、羽島市と岐阜市方面をつなぐ非常に重要な公共交通であるため、色んな場所を直通でつないでしまうことにより、名鉄の利用者が減ってしまい羽島市の総合的な公共交通のレベルが逆に下がってしまうことのないように広域交通を守るためのPRを進めていきたい。

運転手のヒアリングにおいて出た意見として、現状の課題としては、「はしまわる線の1周1時間15分の所要時間が短くなると良い」、「西線の始発の時間が遅い」、「狭い道を走らないといけない」、「バス停が狭いところに設置されている」、「一日券の金額が細かいので煩雑」、「若い人からキャッシュレス決済についての質問もある」といった意見がだされた。

提案としては、「デジタル定期も学生の購入の負担に関して利便性が向上する」という前向きな意見や、「日曜日の南部線も休憩時間に配慮してほしい」という意見があった。

また、免許の返納については、「羽島市は農家の方が多いので、免許を返納する方は多くなく、農業やる限り免許は返納しないのでは」という意見があった。

(委員)

目標、民間と連携した運行形態、新たな研究と記載されているが、他市町の公共交通との相互乗り入れも含まれているのか。また、新たな運行方式というのはどのようなものを想定されているか。

(事務局)

他市町の乗り入れについて、既存のネットワークで海津市や輪之内町もバスが乗り入れている。まずは既存の公共交通機関を利用していたきながらというところを軸として考えていきたい。また、岐阜連携都市圏の公共交通分野の会議等において、直接連携のない市町村とも情報交換していることから、連携検討を進めていきたい。

新たな運行方式の研究については、定時定路線にこだわらず、タクシーが減少していることもあり、需要と供給のバランスを考えつつ、mobi の実証実験、自動運転等の他市町の情報収集を進めながら、どのような方式が羽島市の公共交通に適しているかの研究をしていきたいと考えている。

(委員)

とても良い骨子案だと思っている。今回強調されたのが広域幹線交通である。名鉄や名阪近鉄バス、JR の駅の存在は羽島市の公共交通ネットワークにとって重要な存在である。また、市が中心となって走らせているコミュニティバスや mobi は、地域をすべてカバーすることはできないものの面的な公共交通であり、こちらも重要な存在である。両者のうち一方が衰退するともう一方も衰退する関係にあり、逆をいえば、コミュニティバスや mobi 等の面的な交通が発展していくと幹線にとってもプラスになる。

今回は公共交通の計画ということで、まちづくり関係の目標は具体的には挙げられていないが、幹線交通も非常に重要になってくる。課題や目標に名鉄や名阪近鉄バスを入れたため、幹線の民間の交通機関ももっと積極的に地域公共交通として発信出来たらよいと考えられる。例えば名古屋の場合、中央新幹線で駅を再開発することとなり大きな注目を集めているが、地域においても観光分野だけでなく、まちづくり関係の分野においても幹線交通と連携し、交流を活発化できればと期待している。

(委員)

羽島市からカラフルタウンまでの経路をスマートフォンで調べてみると、Google マップでは柳津駅から徒歩 20 分との結果が表示された。これはデータが提供されていないこともあるが、境川らくちゃんバスに乗り継ぐのも 1 日 5 便と少ないため、本当に必要なのであれば羽島市のコミュニティバスを乗り入れることも制度としてはありえる。

市民にとっては便利なほうがよいというのは当然だが、既存の交通

機関の民業圧迫にならない範囲や、羽島市の財政で投入可能な財源といった制約条件を踏まえたうえで、どこまでのサービスを提供するかについてこの協議会で議論して、地域公共交通計画にまとめていくと良いかと思う。

(羽島市地域公共交通計画骨子案について承認された)

4 その他

(事務局)

以下について説明。

- ・ デマンド型交通 mobi の実証実験継続に伴う令和 6 年 10 月 1 日からの変更点
- ・ 運転免許証の自主返納者の特典に mobi 乗車券を追加
- ・ はしま de マルシェにおける公共交通 P R ブースの設置

(委員)

mobi の変更点や免許証の自主返納について、住民へは回覧板か何かで周知されたか。

(事務局)

11 月の広報紙に特集を組む予定である。mobi の準備の都合で 10 月号のタイミングに間に合わなかったため、mobi の変更点と自主返納について、11 月の広報で周知をさせていただく。また、ホームページでは既に周知している。

(委員)

10 月 12 日に、運輸支局、バス協会、タクシー協会のほか、自動車の関係団体で連携して開催する「はたらくのりものと自動車安全・環境フェスタ 2024」をカラフルタウンにて開催予定である。現地で岐阜市の自動運転や笠松バス無料デーの周知で、チラシを配るなどするため、羽島市においても周知するものあれば、預けていただければと思う。

(委員)

地域の皆様に支えていただき、10 月 1 日に東海道新幹線、岐阜羽島駅は開業 60 周年を迎えることができた。これからも安全・安心な輸送に向けて、地域の皆様と一体になって発展していくように努めていくため、協力をお願いしたい。

(委員)

運転免許証の自主返納に係る事業を実施していただいているが、羽島市を含む岐阜羽島警察署管内全体で今年受け付けた自主返納は、昨日現在で 170 件ほどとなっている。

人口規模等を考慮すると一概に判断はできないが、県内の警察署の

中では5番目に多い件数となっている。高齢者の事故が多くなっている中、こういった支援事業があることで自主返納を促しやすいので引き続きよろしくをお願いしたい。

5 閉会